

2020 年 10 月 8 日
株式会社サティスファクトリー

廃棄物管理システム「RAS」を完全自社開発、「KIZUNA」の強化から ～排出情報と処理情報のビッグデータ化で再資源化の物流課題を解決～

事業者向け廃棄物マネジメントサービスを提供する株式会社サティスファクトリー（本社：東京都中央区、代表取締役会長：小松武司）は、会社理念に掲げる「圧倒的な情報力・分析力・提案力」を実現すべく、廃棄物管理に特化したクラウドシステム「RAS（ラス）」を完全自社開発し、2020 年 10 月 1 日（木）より社内運用を開始しました。まずは、全国の約 15,000 事業所の排出情報と、約 3,500 社による処理および再資源化情報を効率的に管理・分析します。これにより、資源循環プロジェクト「KIZUNA」のサービス提供の強化を皮切りに、廃棄物管理システムのプラットフォーム化を図り、廃棄物に係る全く新しい事業創造に取り組んでまいります。

<システム比較表>

システム	排出事業所の 情報管理	排出物と処理の 情報管理	請求・支払の 情報管理	適正処理の 提案・サポート	再資源化の 提案・サポート
管理会社向け RAS	○	○	○	○	○
排出事業者向け 従来のシステム	○	○	○	×	×
処理業者向け 従来のシステム	△	○	△	×	×

■ 欠かせなくなった廃棄物管理会社の役割と開発背景

持続可能な開発目標 SDGs の目標 12「つくる責任・つかう責任」にあるように、排出事業者には、廃棄物処理に関わる法改正対応及び適正処理への責任追及が日に日に厳しくなっています。さらに、廃棄物に限らず環境への取り組みとしても、企業活動に ESG 要素が求められるようになりました。

排出者責任のもと、適正処理・適正価格を見極めた処理方法の検討、委託先の選定、再資源化までのモニタリングは容易ではありません。つまり、排出事業者と処理業者との間に立つ廃棄物管理会社は、その**マッチングをいかに効率的かつ創造的に行うか**が問われます。

しかしながら、廃棄物業界の情報管理は、電子化が徹底されず膨大な時間と労力を要してきました。複雑化するニーズに、**記録が主となる従来システムでは必要な情報が即時に結びつきません**。

そこで、サティスファクトリーではこのソリューションツールの開発チームを立ち上げ、完全自社開発にて廃棄物管理に特化したクラウドシステムを構築しました。

■ 廃棄物業界の情報管理とシステム事情

近年、廃棄物情報を管理する市販システムは増加しています。その機能は、契約書や許可証の登録、電子マニフェストとの連携など、**多くは排出事業者や処理業者が自社の業務を効率化**するために用いられます。ここで課題になるのは、その業務の本質を問う第三者の目が乏しいことです。

廃棄物管理の目的は地域毎のルールに則るだけではなく、廃棄物減量・物流効率化・コスト削減・業務負荷軽減・環境負荷軽減など様々です。これらを適切に継続するには、専門性の高い**廃棄物管理会社が情報管理の中心となり、新たな処理方法や再資源化スキームを構築する提案力が必須**と考えます。

■ 資源循環プロジェクト「KIZUNA」との連動

サティスファクトリーは、廃棄物管理会社として積み上げてきた累計約 52,000 件の調査実績に加えて、常時管理する約 15,000 事業所の排出情報、約 3,500 社の処理情報を蓄積しています。近年ではこれを広くご評価いただき、一般的な廃棄物処理に限らず処理困難物の適正処理や再資源化のご相談をいただくことが急増しました。この声に応えるべく、2020 年 7 月には**廃棄物をワンストップで回収×買取×モニタリングサービス「KIZUNA」**を開始しております (<https://www.sfinter.com/information/post-1938/>)。

今次、「RAS」の運用開始に伴い、これまでに培った経験と情報はビッグデータになります。システムの内製化は、昨今の目まぐるしい変化にリアルタイムで追随し、先を見据えた攻めのアプローチを実現します。つまり、システム上で「KIZUNA」のモニタリング解析が紐づくことで、一社一社に対して新しい再資源化の方法や物流を的確かつ迅速に実行することが可能になりました。今後も圧倒的な情報力・分析力・提案力を掲げ、資源循環を推進してまいります。

■ システム概要

名 称： RAS（ラス、Resource Arrangement System）

内 容： 廃棄物管理に特化した Web アプリケーションクラウドシステム

運 用 開 始： 2020 年 10 月 1 日（木）

機 能：

- ① 各種手配（廃棄物定期回収・廃棄物臨時回収手配・廃油回収手配・ごみ袋手配・原状回復工事手配・グリストラップ清掃・消毒等の特殊清掃手配 等）
- ② 定期回収の条件変更時の手配
- ③ 対応履歴登録・閲覧機能（ソリューションセンター）
- ④ 各種書類の自動作成機能やメール（FAX）送付の自動送付機能
- ⑤ 法的書類の管理（契約書類・マニフェスト）
- ⑥ マニフェスト報告書の自動作成機能（行政地区毎の各書式に対応）
- ⑦ 電子請求サービス（インフォマート）との連携

- ⑧ 請求書の自動発行・送付機能
- ⑨ 銀行 API サービスを活用した、明細情報を自動取得・入金状況の閲覧（業界初）
- ⑩ 業務のタスク管理機能

今後の展開例：

- ① 排出事業者が閲覧できる Web サイト展開
- ② SNS アカウントの開設と情報発信、受付対応履歴の連携
- ③ 電子マニフェスト（JWNET）との連携
- ④ 外部へのアウトソーシングサービスの提供 等

多くのサービス付加、廃棄物に関連する当事者(排出事業者、収集事業者、処理事業者、リサイクル事業者等)への全方位での事業展開が可能となります。

開 発 者： 株式会社サティスファクトリー 経営企画部 システム開発チーム

■ 株式会社サティスファクトリー

所 在 地： 東京都中央区八丁堀 3 丁目 12 番 8 号 HF 八丁堀ビルディング 8F

代 表 者： 代表取締役会長 小松 武司

設 立： 1996 年 11 月 13 日

事 業 内 容： 廃棄物管理事業、環境コンサルティング事業、再生可能エネルギー事業

資 本 金： 1 億円

ウェブサイト： <https://www.sfinter.com/>

■ お問い合わせ先

担 当： 経営企画部 課長 志賀（しが）
広報担当 梶田（かばた）

電 話： 03-5542-5300

E - m a i l： consulting@sfinter.com

以上